

国語科学習指導案

日 時 平成 27 年 11 月 17 日

学 級

場 所

授業者

1 単元名

平家物語に登場する人々の生き方に迫る

2 単元の目標

(1) 「平家物語」の登場人物の生き方について考えながら作品を読もうとする。

[関心・意欲・態度]

(2) 登場人物の心情や行動から内容を理解し、作品に表れているものの見方や考え方について自分の価値観と比較し、考えをもつことができる。

[読むこと (1) イ、エ]

(3) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像することができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア (イ)]

3 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・「平家物語」を読み、話の内容や登場人物の生き方について知ろうとしている。 ・交流を通して古人の生き方についての考えを深めようとしている。	・「平家物語」の登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てている。(イ) ・「平家物語」を読むことを通して、古人のものの見方や考え方について、自分の価値観と比較しながら考えている。(エ)	・「平家物語」の現代語訳を読むことを通して、登場人物の思いや考え方を想像している。[ア (イ)]

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、限られた時間数の中で『平家物語』の多くの場面に触れ、読みや考えを深めるための言語活動として「交流」を行う。「読むこと」の言語活動例「ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。」

本単元で扱う『平家物語』は、平家一門の隆盛から滅亡までが描かれた軍記物語であり、現代でも小説や映画、ドラマの素材として多くの人々の心を引きつける魅力あふれる作品である。それは、歴史上の事実だけが語られるだけではなく、数々の合戦が繰り広げられる動乱の時代を生きる人々のありさまが生き生きと描かれ、現代と変わらない喜怒哀楽の人間の情を感じ取ることができるからであろう。

これまでの自分の指導を振り返ると、教科書教材の「扇的」と「弓流し」の場面における登場人物の立場や心情を捉えさせる授業を展開してきたが、生徒たちに与一や義経、源平の武士たちの心情を真に理解させることは難しいと常々感じてきた。例えば、扇的を射る場面の状況を読み取り、見事射ることができた与一の腕前を理解させることができても、武士として自害も覚悟して的方向に向かった与一の心情にいま一つ迫ることができなかつたり、与一の腕前を讃えて舞を舞う男の首を射た後に人々の語る

「あ、射たり。」「情けなし。」という言葉を考えさせると、「戦の最中なのだから仕方がない。」「いくら敵だからといって殺すのはかわいそう。」といった表面的な感想で留まってしまったりすることが多かったからである。

前述のとおり『平家物語』は平家一門の隆盛から滅亡までが描かれた長大な物語である。400年にわたる都での優美な貴族を中心とする社会が終焉を迎え、新たな武士の時代が築かれようとする動乱の時代。そこに渦巻くさまざまな人間模様を1つの場面から読み取るには限界があろう。それならば、現代の中学生にも分かりやすく心惹かれるであろう場面を選び出し、読ませてみてはどうだろうか。それらの場面に登場するさまざまな人物の話を重ね合わせ、複数の登場人物の心情を知った上で「扇的」を読み直したならば、与一や義経、源平の武士たちの心情に更に深く迫らせることができるのではないかと考えた。また、この学習を通して学ぶ『平家物語』に登場する人々のさまざまな人生は、生徒たちが音読で慣れ親しんでいる冒頭文の無常観についての理解を深め、古人のものの見方・考え方に興味・関心を持たせる一助となるのではないかと思う。

今回、生徒に読ませたいと考え、選び出した場面は以下のとおりである。平清盛が逝去し、平家が都落ちしてから壇ノ浦で滅亡するまでを4つの場面に分け、グループで分担読みを行わせる。教材は「ビギナーズ・クラシック日本の古典『平家物語』」（角川書店編）を用いるが、古典の文章に触れさせることも考慮して、原文が併記されている場面を選んで各グループに読ませることとする。

教材 ビギナーズ・クラシック日本の古典「平家物語」（角川書店編）

読む場面と生徒に読み取らせたいこと

- ① 平清盛逝去から平家の都落ちまで（P121～151）
 - ・ 入道逝去「巻第六」（自身の成仏より頼朝の首だという清盛の心情）
 - ・ 忠度都落ち「巻第七」（忠度の歌に対する思い、忠度にとっての名誉とは何か）
- ② 宇治川の合戦（P167～P183）
 - ・ 宇治川の先陣争い「巻第九」（武士にとって大切なものとは何か）
 - ・ 木曾の最期「巻第九」（主君に対する兼平の心情）
- ③ 一の谷の合戦から屋島の合戦前まで（P185～P214）
 - ・ 敦盛最期「巻第九」（敦盛の潔さ、直実の心情）
 - ・ 維盛の入水「巻第十」（自害をためらう維盛の心情）
- ④ 壇ノ浦の合戦（P232～P252）
 - ・ 先帝御入水「巻十一」（二位殿の覚悟、安徳天皇の心情）
 - ・ 能登殿最期「巻十一」（さまざまな武士たちの死に際の心情）

今回の言語活動「交流」は、他の人の読みを知ったり、自分の読みに共感してもらったり、あるいは誤りを指摘してもらったりと、さまざまな言葉のやり取りを通して自分の読みや考えを深めていくうえで有効であると考えている。そこで、小グループによる感想の交流を3回設定することとした。

- ① 一人一人が担当した場面を読んだ後、最初の交流として同じ場面を読んだ仲間同士で、登場人物が生死をどう考えているのかを話し合う。
- ② 次に、別の場面を読んだ人と新たなグループを作り、それぞれが読んだ場面や登場人物の紹介を行い、武士やこの時代に生きる人々の生死に対する考え方について話し合う。
- ③ 最後に、他の場面での話や登場人物を知った上で、「扇的」「弓流し」の場面に戻り、疑問点について話し合う。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

前半では、「読むこと」(イ)の「描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」の指導を通して、文章の内容や表現に注意して読む力の向上を図る。後半は、(エ)「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」の指導を通して、前半に読み取った「平家物語」に登場する複数の人々の生き方や考えを、自分の生き方や考えに照らして共感したり評価したりする力を身に付けさせる。全体的には「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」(伝統的な言語文化に関する事項 イ)を扱う。別世界のこと、難しいものと捉えていた古典を、現代語訳を読むことで古人の心情を理解し、現代と変わらないものや、今の自分とつながっていることを実感させたい。そして、文学作品として「平家物語の全編を読みたい」「他の古典作品も読みたい」という態度も育てていきたいと考える。

これまでの古典学習では、古文に親しませるために音読や暗唱を多く取り入れ指導してきた。しかし、近年は、「平家物語」や「枕草子」など中学校の教科書教材の音読や暗唱をすでに小学校で経験している生徒が多い。そこで、中学校では読むことを通して内容を理解し、古典作品への興味、関心をもたせたいと考えた。内容そのものに目を向けさせるためには、現代語訳で読ませることも有効ではないかと考え、教材はビギナーズ・クラシックス日本の古典「平家物語」(角川書店編)を使うこととした。ただし、古文の音読に慣れさせたり、古語の味わいやおもしろみを感じさせたりするために、古文そのものに触れさせる学習も適宜取り入れていきたい。

(3) (1) (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

【「読むこと」の指導及び言語活動(2年生)】

- ・小説『アイスプラネット』(椎名誠) 登場人物の人柄や心情を捉え、手紙を書く。
- ・説明文『やさしい日本語』(佐藤和之) 情報を伝えるために大切なことを読み取り、「伝わる伝え方」を考えてポスターを作る。
- ・随筆『字のない葉書』(向田邦子) 登場人物の人柄や心情を捉え、「私と家族の絆」をテーマに作文を書く。
- ・小説『盆土産』(三浦哲郎) 登場人物の人柄や心情を捉え、物語の続きを書く。

【古典の指導】

1年生

- ・『竹取物語』冒頭文の音読。登場人物の人柄や心情を捉える。
- ・故事成語『矛盾』の音読。漢文の読み方を知る。故事成語の由来や意味を調べ、例文を書く。

2年生

- ・『枕草子』の音読指導・暗唱を行ったあと、自分流の「枕草子」を書く。

読むことの学習では、個人で読み取りを行ったあとグループで交流を行い、その後、全体で内容や登場人物の心情の読み取りの確認をするようにしている。また、手紙や作文を書いたあとはグループで読み合いを行い、感想を述べ合う活動を多く取り入れるようにした。こうしたグループ活動は、4人または6人で行っているが、意見を述べ合うときは4人のほうが活発な話し合いができています。

5 生徒の実態

学習に対して前向きであり、授業に落ち着いて取り組める生徒たちである。課題に積極的に取り組み、自分の考えを書くことなどはできるが、感想の交流や話し合いを行った場合、それぞれの意見を述べるに留まり、他の人の意見に質問をする、他の人の意見を参考に自分の考えを深めるということは課題と

しているところである。そこで、本単元では、交流の前に、交流の目的や流れなどを示し、より有意義な交流をもてるようにしていきたい。この学習を通して他の人の意見や考えを知ることによって広がりをもたせたり、自分の思考を深めさせたりしたいと考えている。

古典学習に関するアンケートでは、古典学習に興味・関心がある、少しあると答えた生徒が予想より多く 22 人であった。古典学習で学びたいことでは、「すらすら読めるようになりたい。」「昔の言葉の意味を知りたい。」「作品の内容について知りたい。」の項目が過半数を超えており、古典学習への意欲は高い。一方で、古典学習に興味・関心がない生徒の理由からは、古典は古いから難しくてわからないという思いが強いことがうかがえる。古典の世界と現代のつながりに少しでも気付かせることができれば、興味・関心は高められるのではないかと思う。

アンケート結果

1. 次の作品についてどの程度知っているか○をつけてください。また、知っているものはどのように知ったのかを書いてください。(回答 36 人)

作品名	知っている 内容を	知っている 作品名は	知らない	どのように知ったか					
				国語	社会	読書	絵本 漫画	その他	不明
① 万葉集	6	28	2	6	19	1			8
② 竹取物語	29	7	0	8	3	5	7	4	10
③ 源氏物語	14	21	1	5	13	4	4	1	8
④ 枕草子	10	24	2	5	14	1		1	13
⑤ 平家物語	9	23	4	5	10	1	1	3	12
⑥ 徒然草	2	26	8	8	10				10
⑦ おくの細道	2	16	18	2	5	2			9

2. 「平家物語」に○をつけた人は、内容を書いてください。

- ・ 平家の話 (1)
- ・ 戦の話 (1)
- ・ 冒頭を暗記している (5)
- ・ 人、物もいつかは滅びるとい話 (2)

3. 次の言葉を読んで、読みをひらがなで書いてください。(正答率)

- ①やはらか (100%) ②にほふ (69%) ③思ひて (64%) ④答へて (100%)
 ⑤みなか (97%) ⑥こゑ (78%)

4. 古典の作品で普段読んでいる本がありますか。あれば、書名も書いてください。

(三国志 1人 伊勢物語 1人 なし 34人)

5. 古典学習に興味、関心がありますか。それぞれ理由を書いてください。

ある 8人

- (理由)・話の内容が面白い (3)
- ・完璧に読めたらカッコいい (1)
- ・読み方が、おもしろい (1)
- ・百人一首が好き (1)
- ・現代語訳にするのが好き (1)

少しある 14人

- (理由)・昔のことが知りたい (2)
- ・読めると楽しい (2)
- ・歴史に興味がある (2)
- ・現代語訳にするのが好き (1)
- ・八犬伝が好き (1)
- ・昔と今の比較が好き (1)
- ・昔の言葉遣いがきれい (1)
- ・図書室に置いてあるから (1)
- ・1年のときの「蓬萊の玉の枝」が好き (1)

ない 14人

- (理由)・難しい、わからない (7)
- ・読むのが面倒 (3)
- ・つまらない (2)
- ・古典を知っていても意味がない (2)
- ・現代の本のほうがおもしろい (1)
- ・古いものが好きではない (1)
- ・話が長い (1)

6. 古典学習でどんなことを学びたいですか。○をつけてください。(複数回答可)

①昔の言葉の意味を知りたい。	21
②すらすらと読めるようになりたい。	27
③有名な作品を暗唱してみたい。	13
④作品の内容について知りたい。	20
⑤作者について知りたい。	10
⑥書かれた時代や、文化を知りたい。	15
⑦その他 (作者の気持ちになって考えたい)	1

6 単元指導計画（全7時間）

	学習活動と内容	指導や支援の手立て（◇は評価）
1	<p>○「平家物語」の概要を知る。</p> <p>○冒頭文の音読をし、古文のリズムに親しむ。</p>	<p>・視聴覚教材を使い興味をもたせる。</p> <p>・追い読み、一斉読み、グループ読みなどさまざまな読み方をし、古文のリズムを楽しむようにする。</p> <p>◇仮名遣いを理解し、リズムを捉え音読しているか。</p>
2	<p>○学習の見通しをもつ。資料①②</p> <p>○源平の合戦と、「扇の的」「弓流し」の場面の位置付けを知る。</p> <p>○「扇の的」を音読する。</p>	<p>・平家物語のあらすじが歴史的説明にならないよう、名場面や登場人物を紹介し、興味、関心が高まるようにする。</p> <p>◇文章のリズムを捉え、正しく音読しているか。</p>
3	<p>○「扇の的」を学習する。 （ワークシート①②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を把握する。 ・義経、与一、源平の武士たちの心情を読み取る。 ・登場人物の言動から共感できること、共感できないこと、疑問点を挙げる。 	<p>◇話の内容を理解し、登場人物の言動から、共感できること、共感できないことについて自分なりの考えをもつことができたか。</p>
4 5	<p>○さまざまな場面を読む目的を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「扇の的」「弓流し」を読んで感じた疑問を考えるために、他の登場人物の生死に対する考え方を知る。 <p>○ビギナーズクラシックス「平家物語」の巻一の冒頭を読む。</p> <p>○担当の場面を読み、内容を捉える。 （ワークシート③④）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話のあらすじ ・登場人物の生死に対する考え方をおさえる。 ・疑問点を考える。 <p>※平清盛逝去から壇ノ浦の合戦までを4つに分け、2班ずつ分担して読む。</p> <p>①平清盛逝去から平家の都落ちまで （P121～151） 入道逝去「巻第六」忠度都落ち「巻第七」</p> <p>②宇治川の合戦（P167～P183） 宇治川の先陣争い「巻第九」 木曾の最期「巻第九」</p>	<p>・さまざまな場面を読む目的を自覚できるようにする。</p> <p>（「扇の的」の疑問点の解決、古人の考えを知る、自分の考えをもつことなど）</p> <p>◇読む目的を理解し、興味をもって読み進めているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい語句や、現代では理解が難しい解釈については適宜解説し、話の内容が理解できるよう支援する。 ・他の場面も必要であれば、読むように勧める。 <p>◇情景や、登場人物の言動の意味などを理解しながら読み、自分なりの考えをもてたか。</p>

	<p>③一の谷の合戦から屋島の合戦前まで (P185～P214) 敦盛最期「巻第九」維盛の入水「巻第十」</p> <p>④壇ノ浦の合戦 (P232～P252) 先帝御入水「巻十一」能登殿最期「巻十一」</p>	
6	<p>○同じ場面を読んだメンバーで感想を述べ合い、他の場面を読んだ人に場面や人物について紹介できるようにする。(交流①) (4人班×4 5人班×4 計8班)</p> <p>※交流の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取りに間違いがないかを確認する。 ・他の人の感想を知る。 ・一人一人が他のグループに説明ができるようにしっかりと話し合っておく。 <p>※交流の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①話の内容の読み取りの確認をする。 ②登場人物の心情や考え方など、根拠を示しながら順番に述べる。 ③疑問点をお互いに出し合い、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の目的や流れを示し、班で話し合うことや、まとめる内容を把握させる。 ・考えの根拠となる文章は、本を開き確認するよう指導する。 <p>◇自分の考えを、根拠を示しながら述べたり、他の人の考えに質問したりしながら、積極的に交流をしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる考えには質問をすること、質問された側は根拠を示しながら答えることを指導する。 ・考えの根拠となる文章は、本を開き確認するよう指導する。
7	<p>○読み取りを担当した場面について、他のグループの人へ紹介する。(交流②)</p> <p>○他の場面からさまざまな登場人物の考え方を知る。(ワークシート⑤)</p> <p>※交流の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの登場人物の生死についての考え方を知る。 ・それぞれがもった疑問点の答えを他の場面と関連させて考える。 <p>※交流の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出来事の順に自分の読んだ場面について話す。 (あらすじ、登場人物の考え、疑問) ②それぞれの疑問点について話し合う。 解決につながりそうな出来事や登場人物が他の話でなかったかみんなで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の目的や流れを示し、場面の紹介だけで終わらないように指導する。 ・考えの根拠となる文章は、本を開き確認するよう指導する。 <p>◇自分の読んだ場面についてわかりやすく説明できたか。他の場面の内容を踏まえて疑問点の答えを探ろうと積極的に交流しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる考えには質問をすること、質問された側は根拠を示しながら答えることを指導する。 ・考えの根拠となる文章は、本を開き確認するよう指導する。

<p>8 (本 時)</p>	<p>○「扇の的」「弓流し」をグループで読む。 ○前時の交流を踏まえて、「扇の的」「弓流し」の場面に戻り、疑問点について話し合う。 (交流③) (ワークシート⑥)</p> <p>※交流の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな登場人物の考え方を踏まえて、「扇の的」「弓流し」の疑問点を考える。 ・他の人の意見や考え方を知り、自分の考えを深める。 <p>※交流の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「扇の的」「弓流し」疑問点の場面を確認する。 ②疑問点に対して、自分はどう考えているかを順番に述べ合う。 ③疑問点に対する答えの根拠が、他の場面から考えることはできないか話し合う。 <p>○3次で書いた「扇の的」「弓流し」の場面の感想を読み返し、改めて感想を書く。 (ワークシート⑦)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の目的や流れを示し、班で話し合うことや、考える内容を把握させる。 ・考えの根拠となる文章は、本を開き確認するよう指導する。 <p>◇自分の考えを、根拠を示しながら述べたり、他の人の考えに質問したりしながら、積極的に交流をしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を裏付ける根拠を示すよう指導する。(他の場面の登場人物や出来事など) <p>◇他の場面を読んだり、交流を通して考えたりしたことを踏まえた感想が書けているか。</p>
<p>9</p>	<p>○平家物語に表れているものの見方や考え方と自分を比較し、生き方や価値観についてまとめる。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」全体を通して、古人のものの見方や考え方と自分を比較し、生き方や価値観についてまとめる。昔と今とで変わらないもの、変わったもの、共感できること、共感できないことなどを考えるよう指導する。 <p>◇平家物語に表れているものの見方や考え方と自分を比較し、生き方や価値観についてまとめることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の読書につながるように、平家物語の全訳したもの、他の古典などを紹介する。

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ①課題を理解し、話し合いに意欲的に取り組もうとする。 [関心・意欲・態度]
- ②平家物語のさまざまな場面から読み取ったことを踏まえて、「扇の的」「弓流し」の登場人物の言動の意味や心情を考えることができる。 [読むこと イ]

(2) 本時の展開

過程	主な学習内容と活動	指導や支援の手立て（◇は評価）
導入 (5分)	<p>○前時の振り返りをする。</p> <p>さまざまな場面を通して考えた、古人の生き方や命に対する考え方について、何人か発表する。</p> <p>○本時の学習内容と目標を確認する。</p>	<p>・本時の流れを提示し授業の見通しをもたせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「扇の的」「弓流し」の登場人物の心情や考え方を、再考しよう。 </div>		
展開 (25分)	<p>○グループで「扇の的」「弓流し」を音読する。</p> <p>○前時の交流を踏まえて、「扇の的」「弓流し」の場面に戻り、登場人物の心情や考え方について話し合う。</p> <p>①なぜ与一は、自害覚悟で扇の的に向かったのか。</p> <p>②なぜ与一は命令といえども、舞を舞った男を射殺したのか。</p> <p>③「あ、射たり。」「情けなし。」と言った源氏の武士たちの心情。</p> <p>④なぜ義経は命がけで弓を拾いに行ったのか。</p> <p>※交流の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな登場人物の考え方を踏まえて、「扇の的」「弓流し」の疑問点を考える。 ・他の人の意見や考え方を知り、自分の考えを深める。 <p>※交流の流れ</p> <p>①「扇の的」「弓流し」疑問点の場面を確認する。</p> <p>②疑問点に対して、自分はどう考えている</p>	<p>・交流の仕方を示し、班で話し合うことや、考える内容を把握させる。</p> <p>◇ 自分の考えを、根拠を示しながら述べたり、他の人の考えに質問したりしながら、積極的に交流をしているか。</p> <p>・課題について話し合いを終えているグループがあれば、他の課題を提示する。</p> <p>・自分の意見を裏付ける根拠を示すよう指導する。（他の場面の登場人物や出来事など）</p> <p>・考えの根拠となる文章は、本を開き確認するよう指導する。</p>

<p>(10分)</p>	<p>かを順番に述べ合う。</p> <p>③疑問点に対する答えの根拠が、他の場面から考えることはできないか話し合う。</p> <p>○3次で書いた「扇の的」「弓流し」の場面の感想を読み返し、改めて感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共感できなかったことや、疑問に思ったことが今はどう思うかということを中心に書くよう指導する。 ・根拠となる話や登場人物の言動などを挙げるように指導する。 <p>◇他の場面を読んだり、交流を通して考えたりしたことを踏まえた感想が書けているか。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>○感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容を知らせる。